

# 令和5年度全国学力・学習状況調査の 結果・分析と今後の取組について

伊賀市教育委員会

## 1 調査の概要

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、7月31日に文部科学省から公表されました。

調査結果や伊賀市における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等を分析し、今後の取組を以下のようにまとめました。

調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意しながら、本調査結果を教育施策や各学校における指導の充実、学習状況の改善に役立て、取組を進めてまいります。

### (1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 対象学年、実施人数

小学校第6学年 591人

中学校第3学年 620人

### (3) 調査実施日

令和5年4月18日(火)

### (4) 調査内容

ア 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
  - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 本年度調査は、上記①と②を一体的に問う。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

① 児童生徒に対する調査

- ・学校意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

② 学校に対する調査

- ・学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 2 教科に関する調査の結果・分析

### 【小学校】

平均 正答率	国語	算数
伊賀市	69	65
全国	67.2	62.5

※伊賀市の平均正答率は、文部科学省より提供された整数値（小数点以下を四捨五入したもの）を公表しています。

#### ◇ 特徴的な傾向

##### <小学校国語>

○強み： 「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を伝えることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

無回答率が、全国に比べて低くなっています。

○課題： 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

##### <小学校算数>

○強み： 「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

無回答率が、全国に比べて低くなっています。

○課題： 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

「(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

### 【中学校】

平均 正答率	国語	数学	英語
伊賀市	68	50	43
全国	69.8	51.0	45.6

※伊賀市の平均正答率は、文部科学省より提供された整数値（小数点以下を四捨五入したもの）を公表しています。

#### ◇ 特徴的な傾向

##### <中学校国語>

○強み： 「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

無回答率が、全国に比べて低くなっています。

○課題： 「具体と抽象など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる」設問に課題がみられます。

「視点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

## <中学校数学>

○強み： 「自然数の意味を理解しているかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる」設問が、相当数できています。

無回答率が、全国に比べて低くなっています。

○課題： 「空間における平面が同一線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる」設問に課題がみられます。

「累積度数の意味を理解しているかどうかをみる」設問に課題がみられます。

「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

## <中学校英語>

○強み： 「社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

「情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる」設問が、相当数できています。

○課題： 「情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

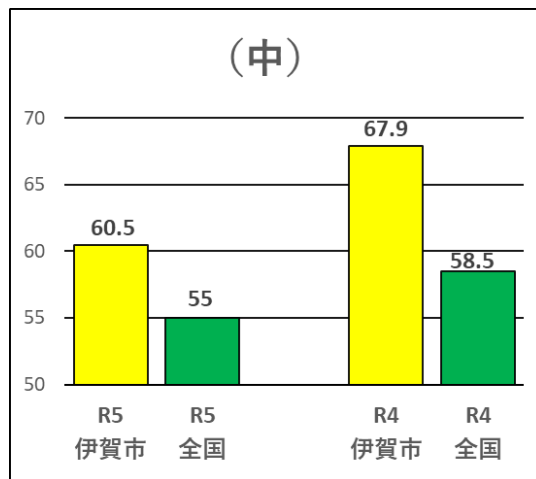
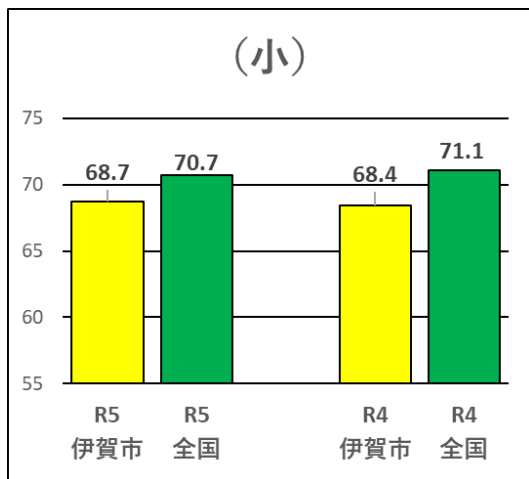
「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」設問に課題がみられます。

### 3 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

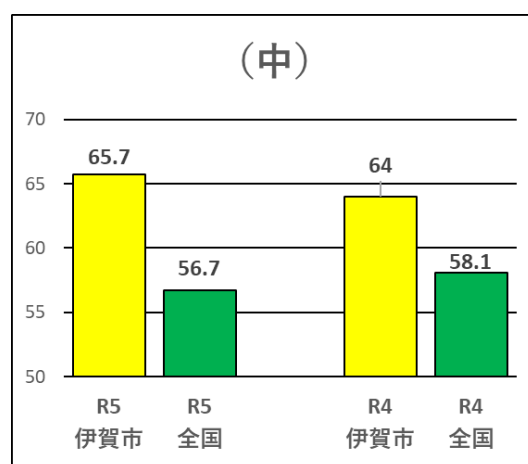
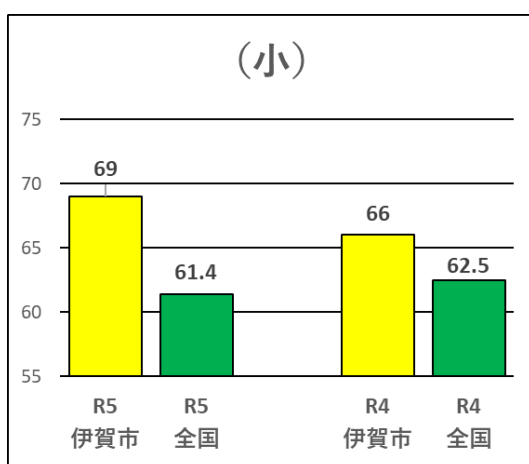
《児童生徒質問紙の結果から》

**「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合（児童・生徒）**



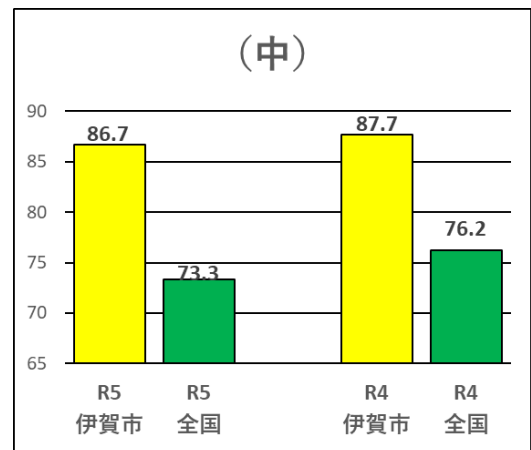
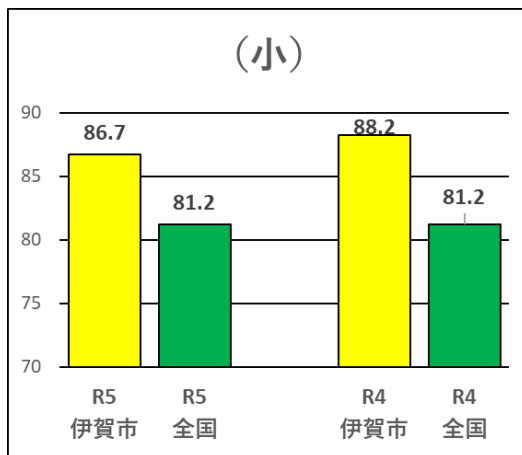
※ 全国と比較すると、小学校で少し低くなっていますが、中学校においては高い数値になっています。家庭学習において、子どもたちが自分の力で計画を立て、宿題や自主的な学習などに取り組んでいると言えます。しかしながら、中学校では昨年度よりも割合が低くなっていることから、家庭学習の計画の立て方や学習内容について、各学校でもう一度、適切な指導を行っていきます。

**「算数・数学の勉強は好き」と答えた割合（児童・生徒）**



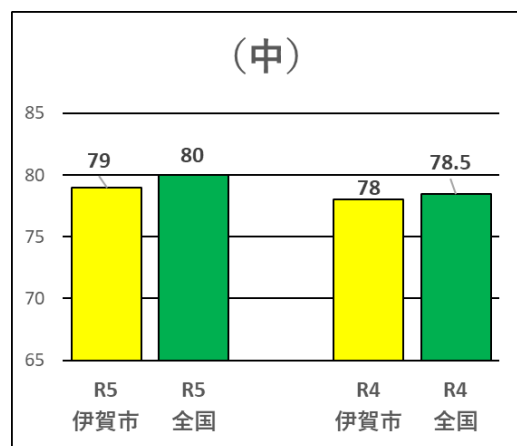
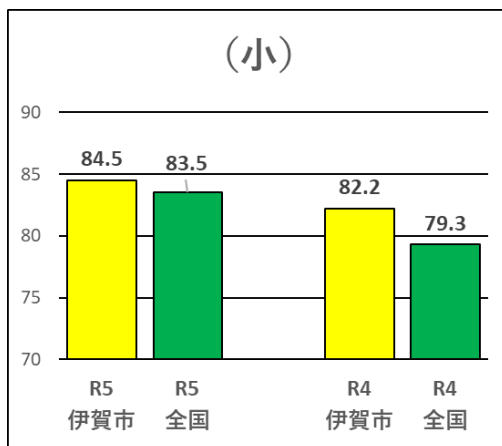
※ 全国と比較すると、小学校、中学校ともに高い数値となっており、昨年度よりも上がっています。今後も、「勉強が好き」という思いが、子どもたちの学習意欲につながるよう、日々の取組を進めていきます。

「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と答えた割合（児童・生徒）



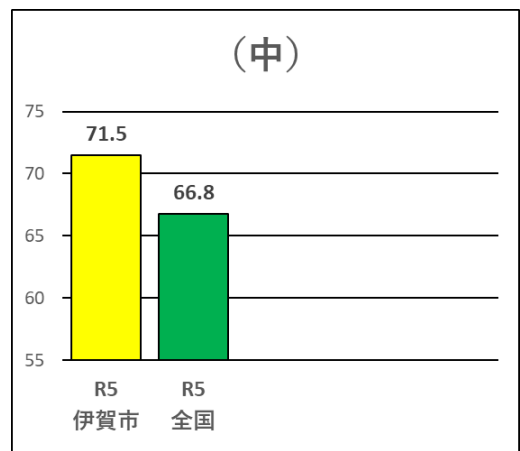
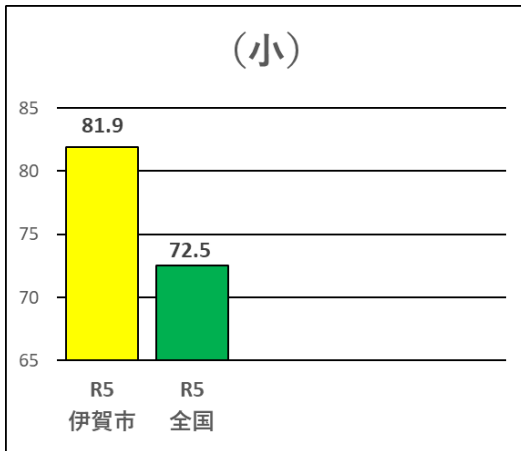
※ 全国と比較すると、小学校、中学校ともに高い数値となっています。「分かった」で終わるのではなく、分かったことを生かして次の課題に取り組むなど、主体的・対話的で深い学びに向けて、さらなる授業改善の取組を進めていきます。

「自分にはよいところがあると思う」と答えた割合（児童・生徒）



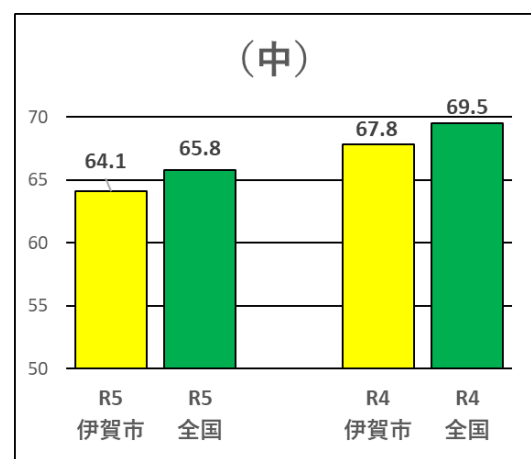
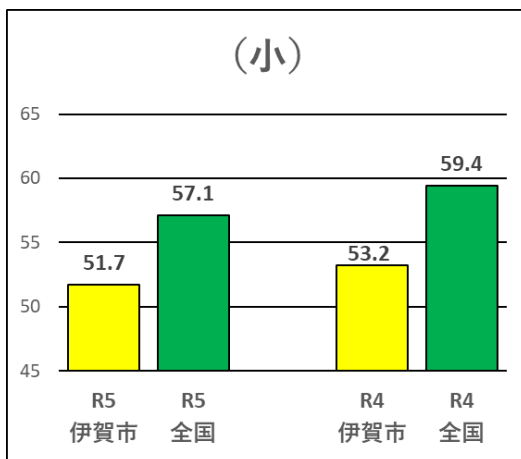
※ 全国と比較すると、中学校ではやや低くなっていますが、小学校においては全国よりも高く、さらに昨年度よりも高い数値となっています。自己肯定感が高まることで、意欲の向上にもつながることが期待されることから、今後も学校・家庭・地域で連携し、一人ひとりを大切にする取組を進めていきます。

「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と答えた割合（児童・生徒） 《令和4年度は設問なし》



※ 全国と比較すると、小学校、中学校とも高い数値となっています。人口に占める外国人住民数の割合が高いという伊賀市の特色から、子どもたちには、互いの文化の違いを認め合い、協力しながら社会を創っていく力が求められています。今後も多文化共生社会の実現に向けて、国際理解教育の取組をさらに充実させていきます。

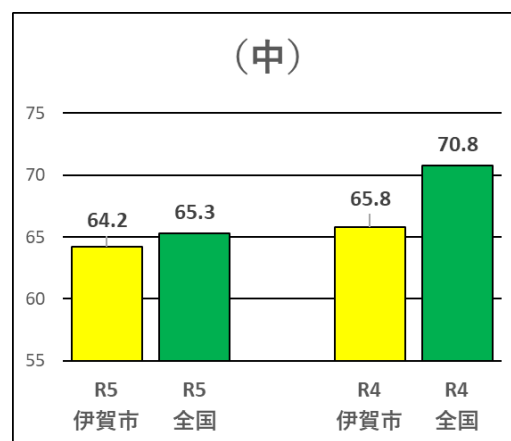
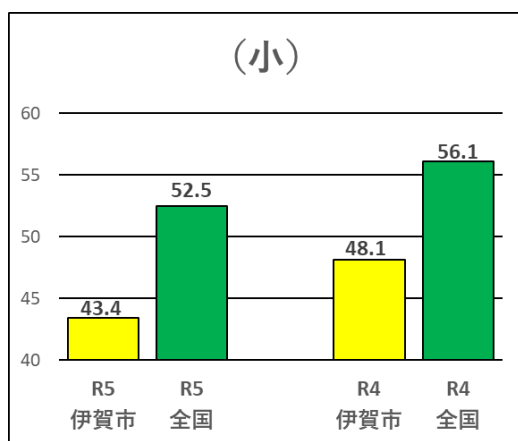
「平日に1時間以上家庭学習をする」と答えた割合（児童・生徒）



※ 全国と比較すると、小学校・中学校とも低い数値が続いています。伊賀市の子どもたちは、家庭学習の時間が少ないという傾向があり、大きな課題であると考えています。小学生は『学年×10分以上』、中学生は『90分以上』を目安に、家庭と連携しながら、家庭学習の習慣をつける取組を進めていきます。

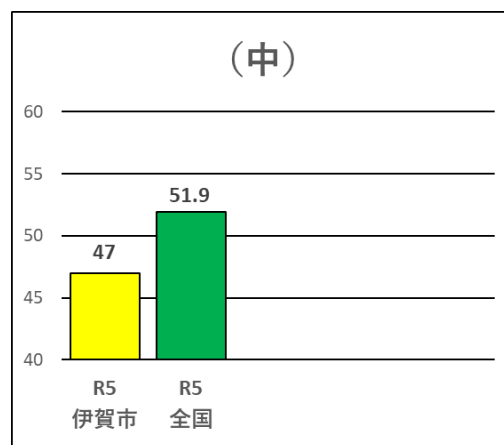
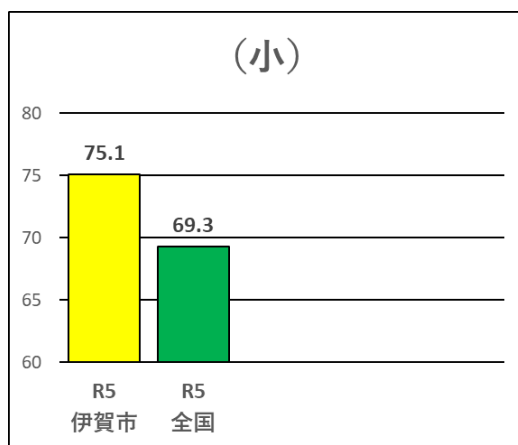


「学校が休みの日に1時間以上家庭学習をする」と答えた割合（児童・生徒）



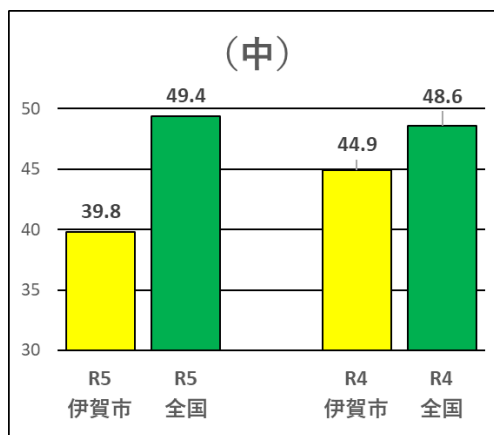
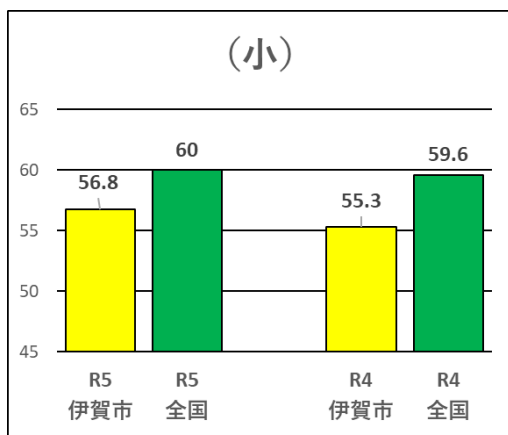
※ 全国と比較すると、平日の家庭学習の時間と同じように、休日の家庭学習の時間においても、小学校・中学校ともに低い数値となり、昨年度よりも減っています。休日は家庭で過ごす時間が長いため、子どもたち自身が、家庭で勉強する時間や内容について、しっかりと計画を立てられるよう、家庭と連携して取組を進めていきます。

「英語の勉強は好き」と答えた割合（児童・生徒）《令和4年度は設問なし》



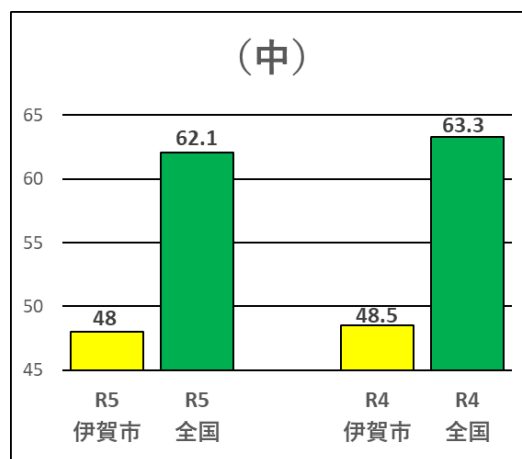
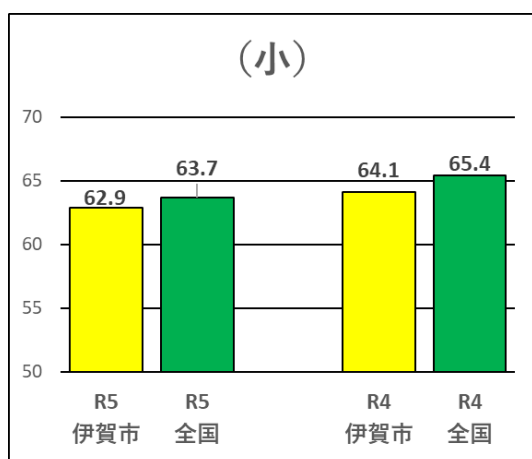
※ 全国と比較すると、小学校では高いものの、中学校では低くなっています。英語嫌いになることで、英語の学習に対する意欲が低下することも考えられます。「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」力が、小学校から中学校にかけて、段階的にレベルアップするよう、研修や小中連携の取組等を進めていきます。

「平日に10分以上読書をする」と答えた割合（児童・生徒）



※ 全国と比較すると、小学校・中学校ともに低く、中学校においては昨年度よりも割合が減っています。読書は、学業の基盤となる国語力や考える力を養うために重要な役割を果たすとともに、豊かな情操と自由な想像力を養うために大切なものです。学校でも「朝の読書」や「読み聞かせ」などの取組をしていますが、家庭での読書習慣をつけることも大切です。

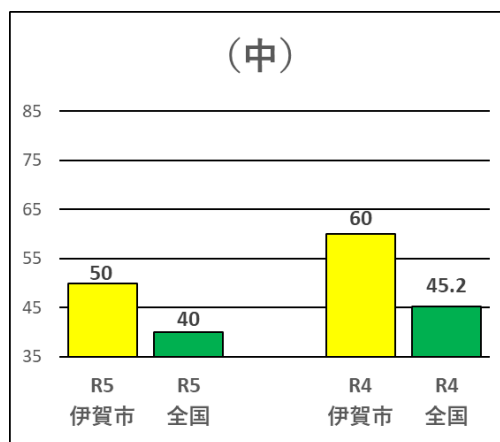
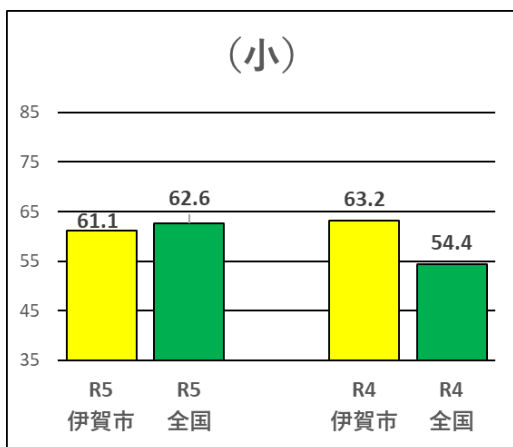
「5年生（中学校は1，2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答えた割合（児童・生徒）



※ 全国と比較すると、小学校・中学校ともに低い数値となっています。自分の考えを伝える力は、コミュニケーションの基礎になります。各学校で、自分の考えを発表する機会を持ち、自分の考えをうまく伝えるための技術を身につけられるような授業づくりに取り組んでいきます。

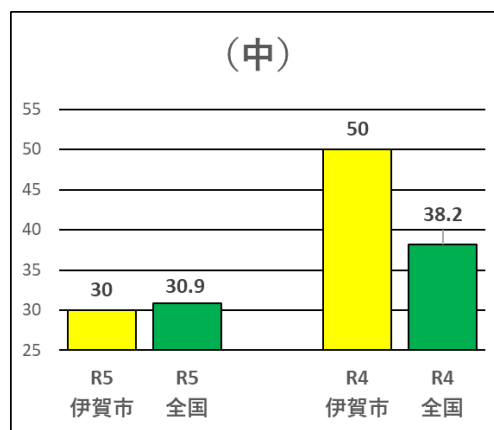
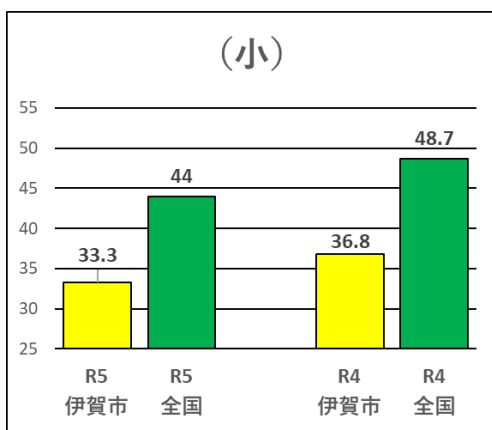
《学校質問紙の結果から》 (学校における教職員の指導・研修等について)

「授業研究や事例研究など実践的研修をよく行った」と答えた割合 (学校)



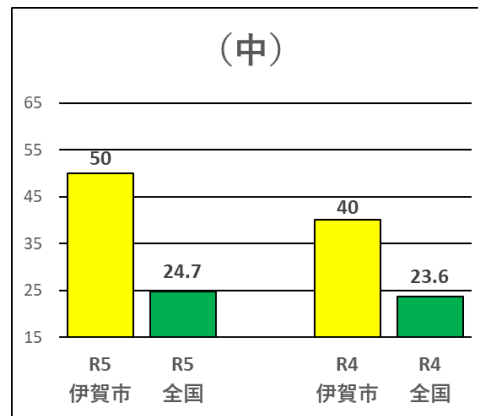
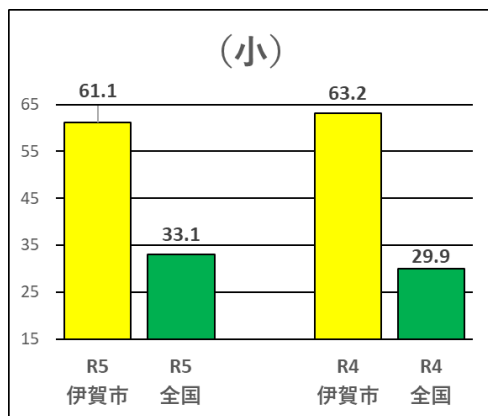
※ 全国と比較すると、小学校ではやや低いものの、中学校では高い数値となっています。新型コロナウイルス感染症対策の影響による制約がなくなった今、指導力の向上に向けて実践的な研修をさらに進めていきます。

「児童生徒に、家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら教える」という設問に「よく行った」と答えた割合 (学校)



※ 全国と比較すると、小学校・中学校ともに低い数値となり、前回と比較しても割合が下がっています。伊賀市の課題である家庭学習の時間を充実させるには、家庭での学習方法や時間のつかい方等の指導が必要です。各学校において、もう一度適切な指導を行い、子どもたちがより意欲を持って家庭学習を進められるよう取り組んでいきます。

「全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」と答えた割合（学校）



※ 全国と比較すると、小学校においても中学校においても高い数値となっています。全国学力・学習状況調査の結果が、子どもたちの学力向上に確実につながるよう、これからも授業改善や、家庭学習の取組について、学校全体で取り組んでいきます。

## 4 今後の取組

### 【伊賀市教育委員会】

- 本調査結果等を活用した指導方法の検証・改善を図るため、各校への指導・助言を行います。
- 教育アドバイザーを学校に派遣し、各校での取組を支援します。授業での目標（めあて・ねらい）の提示と振り返りの徹底と質的向上、ねらいが完結できる授業のタイムマネジメント等、基礎基本の定着を図ります。また、「主体的・対話的で深い学び」を意識した言語活動の充実を図ります。
- 指導力向上に向け、教育研究センターを中心に教科や課題別の研修会等の充実を図ります。
- G I G Aスクール構想に基づく一人一台端末の効果的な活用を進めるため、事例の共有や教職員への研修を実施します。
- 家庭学習の充実、読書活動の推進に向けて「家庭学習・読書のすすめ」の活用を促進します。
- 各小中学校が、本調査結果等の成果や課題を小中間で共有するとともに、授業や学習規律、生活規律面での系統性を図り、発達段階に応じた効果的な指導ができるよう、小中学校の連携を促進します。

## 【各小中学校】

- 本調査結果を分析して自校の課題を明らかにし、「学力向上推進計画書」をもとに改善に向けた具体的な取組を全教職員で組織的に進めます。
- 授業での目標（ねらい）を子どもたちにとってわかりやすいめあてとして提示するとともに、それを振り返る活動を徹底します。また、その時間のねらいが達成できるよう1時間の授業をタイムマネジメントします。さらに、基礎基本の一層の定着を図る取組を進めます。
- すべての教科において、課題解決に向けて、子どもたちにまず自分の考えをしっかりと持たせ、仲間と考えを出し合わせ、さらに考えを深めさせる活動を実施します。また、自分の意見や考えを書いたり発表したりする活動を充実します。
- 一人一台端末をはじめ、ICT機器を授業の中に効果的に取り入れることで、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを進めます。
- 校内研修を充実させ、自校の課題に応じた指導改善を進めます。
- 家庭学習の充実・定着に向け、家庭での学習方法等を、具体例を挙げて指導するとともに、与えた課題についての適切な評価・指導を徹底します。また、予習・復習、自主学習等にも取り組むよう指導し、子どもたちが学習したことで成果を感じられるよう工夫するなど、より意欲を持って学習できるよう、家庭と連携・協力しながら学校全体で取組を進めます。
- 子どもたちの学力の保障にむけ、本調査の成果や課題を共有するなどし、9年間を見通した学習の系統性を図り、より効果的な学習指導・生徒指導ができるよう、小中学校の連携を推進します。

## 【保護者・家庭との連携】

- 規則正しい生活習慣や、スマートフォンやゲーム、インターネットの使い方についてのルール作り等、子どもたちが計画的に時間を使い、生活時間を調整できるように、家庭での学習環境の整備に向け、働きかけます。
- 家庭学習の時間について、小学校では「学年×10分以上」、中学校では「90分以上」を目安として、学校と協力・連携し、家庭学習の習慣を定着させるよう働きかけます。
- 読書習慣を身につけるための環境の整備に向け、働きかけます。
- 学校での出来事や将来のことについてなど、家庭での対話を働きかけます。
- 各学校から家庭学習や学力の状況など、保護者・地域に情報を発信し、連携を図れるよう働きかけます。

## 「伊賀市学力向上プロジェクト委員会」からの提言

### 学力向上に向けた今後の取組について

#### 1. さらなる授業改善への取組

○ 主体的・対話的で深い学びを意識した言語活動の充実

学校は、すべての学年においてキャリア教育を意識し、発達段階に応じて学習への意欲を高める指導を行う。そして、すべての教科において教材研究をふまえた授業づくりを行う。授業の中では児童生徒に自分の考えをしっかりと持たせ、仲間と考えを出し合い、考えを深めさせる活動を取り入れていく。

言語活動については、自分の考えや意見を言葉や文章で相手に伝える指導を日常的に継続して取り組む。特に外国語（英語）において、英語を聞いたり、既習の表現を使って話したりする時間を充実させ、授業の中で外国語を使わせる機会を増やし、英語によるコミュニケーション力を向上させていく。

○ めあてとふりかえり（自己評価）の徹底と質的向上

指導者は、授業でめあてを示すことで、児童生徒に授業の見通しを持たせ、学習意欲の向上につなげる。そうすることによって、授業の焦点化を図ることができる。めあては、児童生徒を主語にし、児童生徒が自分でふりかえりができる言葉で提示する。そして、学習したことを振り返る活動を行い、めあてが達成できたか否かを児童生徒に自己評価させる。授業で分かったことや疑問として残ったことなどを文章化したり、練習問題等を行ったりすることで、学習における自己調整能力向上を図り、主体的に学ぶ態度の育成、学力の定着につなげる。指導者は、そのために、ねらいが完結できるような1時間の学習活動をタイムマネジメントする。

指導者は、この一連の学習活動を通して児童生徒の変容や課題を把握し、適切な評価をフィードバックするとともに、自身の授業改善に活かすようにする。

○ GIGA スクール構想に基づく一人一台端末の積極的な活用

学校は、児童生徒の成長段階に応じて、一人一台端末をはじめ ICT 機器を積極的かつ効果的に活用し、授業改善に取り組む。特に一人一台端末については、授業の中でどのような場面、方法で扱うことがより学習効果を上げることにつながるか検証を行いながら、意見交流や伝え合いなどにも積極的に活用を進める。そして、今後のさらなる活用に活かすために、課題や資料の効果的な提示や、一人ひとりの思考を深める活動などに一人一台端末を積極的に活用し、その活用データを蓄積していく。

○ カリキュラムマネジメントを意識した取り組みの充実

学校は、教科横断的な視点で教育課程を編成し直し、実施・評価して改善を図る取組のPDC Aサイクルを確立させる。

### ○ 授業のユニバーサルデザイン化

学校は、特別な支援が必要な児童生徒や日本語指導の必要な児童生徒にとってわかる授業は、すべての児童生徒にとってもわかる授業であると捉え、すべての児童生徒にわかりやすい授業づくりを行う。「めあて」「ふりかえり」の実施は、授業のユニバーサルデザイン化の重要な要素である。

### ○ 理解度の把握と学習内容の確実な定着

学校は、学-Viva!!セット等を利用して、児童生徒が学習内容をどれだけ理解しているかを把握し、その結果から学習内容の確実な定着に向けて取組を進める。

### ○ 管理職による教員の授業へのアドバイスの実施

管理職は、授業中の教室で児童生徒の学習の状況等を把握し、それぞれの教員に授業力向上に向けた指導・助言を行う。

## 2. 家庭学習の充実

学校は、学習課題を適切に与えることにより、すべての児童生徒に充実した家庭学習の習慣をつけさせる。それぞれの児童生徒の生活実態を把握するところから始め、家庭学習の課題提示やタブレットの持ち帰りによる家庭学習の方法等について学校として基本方針をつくる必要がある。特に学校は、児童生徒の授業への理解を深め、主体的な学びにつながるよう、タブレットを利用した家庭学習の取組を進めていく。

また、指導者が、予習・復習・自主学習等の具体的な学習方法や学習内容の例を提示することで、充実した家庭学習へとつなげていく。家庭での時間のつかい方や家庭学習の内容に対して指導や評価をすることにより、児童生徒の学習意欲が高まったり、定着が進んだりする等、児童生徒自身が家庭学習の成果を感じられるように工夫する。

## 3. 小中の連携、保護者・地域との連携

小中学校が成果や課題を共有するなど、連携をとりながら小中9年間を通して児童生徒の学習内容の理解・定着を図っていく。また、学習規律・生活規律面での系統性を図るよう努める。

また、「いがっ子 ～家庭学習・読書のすすめ～」等を活用して、保護者や地域と連携を図り、家庭学習や読書の状況などを共有する。家庭学習の時間と関わりの大きい携帯電話・スマートフォン・ゲームをする時間に依然として課題が見られるため、ルールや約束を作り、生活時間を調整するよう働きかける。

**授業改善を核にした取組を行う。そのために、学校内の全ての教職員が共通認識をもち、学校長のリーダーシップのもと学校全体で取り組むことを確認する。**

## 1. さらなる授業改善への取組

- 主体的・対話的で深い学びを意識した言語活動の充実
  - ・自分の考えや意見を言葉や文章で伝える場面を日常的につくる。
  - ・英語の授業における、「聞く」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「読む」「書く」活動について、英語で活動を行う時間を増やす。
  - ・教師の言葉（説明等）を減らし、児童生徒の言語活動を増やす。
- めあてとふりかえり（自己評価）の徹底と質的向上
  - ・指導書等を利用し、単元のねらいを踏まえた上で授業づくりを行う。
  - ・児童生徒を主語にした『めあて』（「〇〇できる」等）を必ず提示する。
  - ・自分の学習を自分で振り返る『ふりかえり』の時間を必ず取り、実行する。
  - ・時間内に、『ふりかえり』までが完結する授業を計画する。
- GIGA スクール構想に基づく一人一台端末の積極的な活用
  - ・調べ活動やドリル的な使用だけでなく、意見交流や伝え合いなどにも一人一台端末の活用を進める。
- カリキュラムマネジメントを意識した取り組みの充実
  - ・教科横断的な視点で教育課程を編成する。
  - ・「計画」「実施」「評価」「改善」という取組のPDCAサイクルを確立させる。
- 授業のユニバーサルデザイン化
  - ・すべての児童生徒にとってわかりやすい授業づくりを行う。
  - ・『めあて』と『ふりかえり』を徹底する。
- 理解度の把握と学習内容の確実な定着
  - ・学-Viva!! セット等を利用し、全体や個人の理解度を把握し、その結果から学習内容を確実に定着させる取組を進める。
- 管理職による教員の授業へのアドバイスの実施
  - ・管理職は、それぞれの教員へ授業力向上に向けた指導・助言を行う。

## 2. 家庭学習の充実

- ・自校の児童生徒の実態を把握し、適切な時間の家庭学習を習慣化する。
- ・児童生徒の授業への理解を深め、主体的な学びにつながるよう、タブレットを利用した家庭学習の取組を進めていく。
- ・予習、復習、調べ学習、自主学習等の具体的な学習方法や学習内容の例を提示する。
- ・キャリア教育と結びつけて、自律的な家庭学習へ進めていく。

## 3. 小中の連携、保護者・地域との連携

- ・各小中学校で連携して、定着度等、学力における成果や課題を共有する。
- ・「いがっ子 ～家庭学習・読書のすすめ～」等を活用して、家庭学習の時間や読書時間の確保、ゲーム等の時間の調整等、家庭や地域にも働きかける。